

2009年3月期 第2四半期決算説明会

新たな成長を進めるために

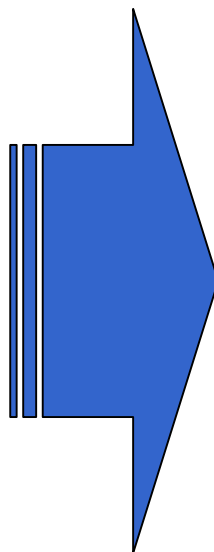
1. 現状の認識と対応策
2. 証券系ビジネスとしての取組み
3. 情報サービスとしての取組み
4. 目指すべき方向性

2008年11月7日

株式会社 CSKホールディングス

■ 環境変化と業績下方修正

- 世界的な信用収縮による国内株式市況の低迷
- 不動産市場の混乱
- 金融機関の不動産関連業界に対する融資姿勢に変化
- IT投資の凍結や延期、価格引下げの要請



- コスモ証券の業績不振
- 保有有価証券の評価減
- CSKファイナンスの不動産売却遅延
- 検証サービスやテクニカルサポート等の新規受注伸び悩み

■ 不動産証券化ビジネスの方針

■ 不動産証券化ビジネス

- 回収を最優先とし、
全保有案件を今期から来期にかけて売却
- 新規案件への投資を凍結

■ コスモ証券と情報サービスの方針

■ コスモ証券

- ホールセールからリテールへ経営リソースを集中
不採算事業からの撤退・縮小
リテール営業強化に向けた組織・人事体制・営業体制の改革
- コスト削減による経営体質の強化
今期の販管費を前年比約30億円圧縮(上期は12億円圧縮)

■ 情報サービス

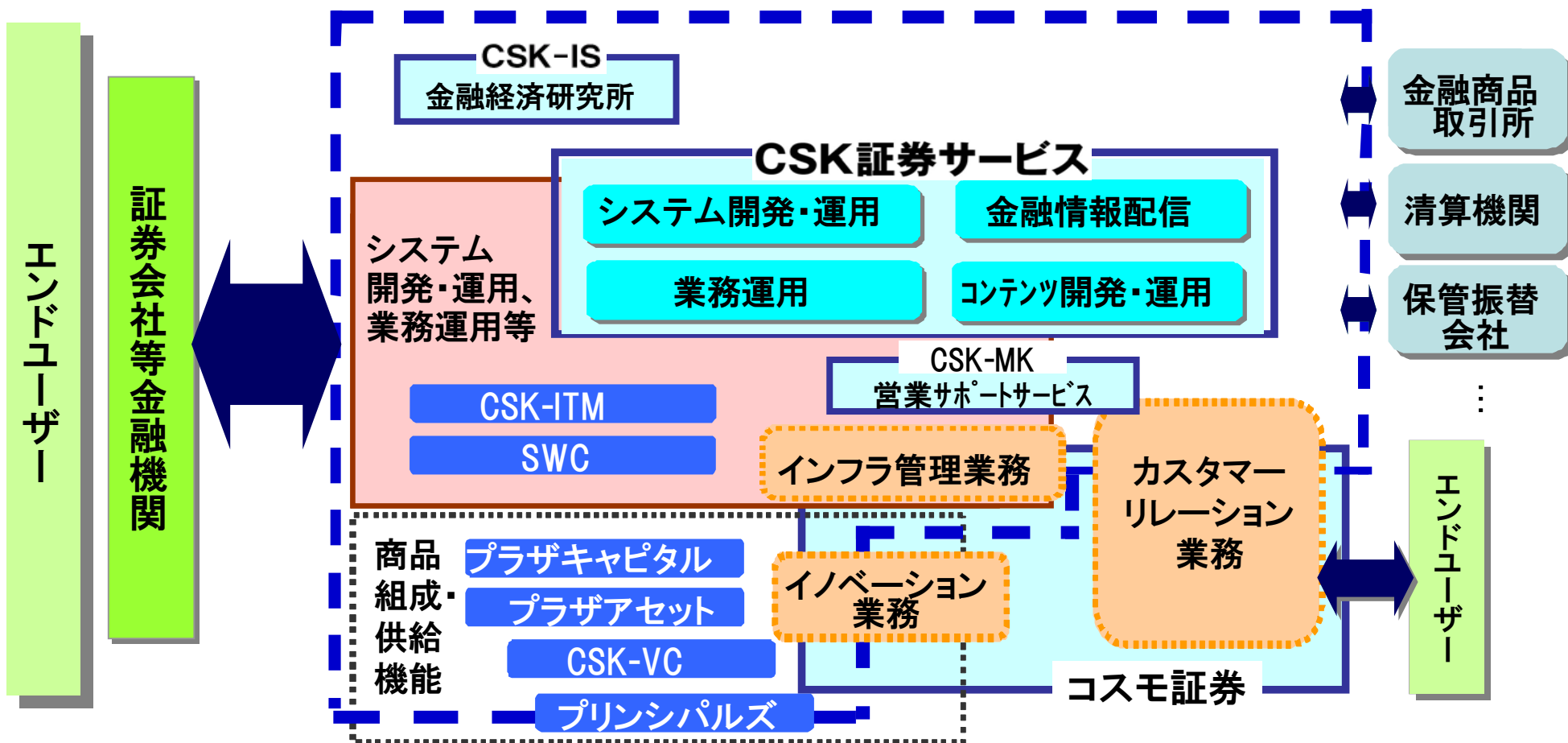
- 収益確保に向けた営業強化とコスト削減
- プロジェクト管理の強化

2. 証券系ビジネスとしての取組み



■ 個人金融資産を活かすための手段と機会を提供

グループの総合力を活かした証券総合プラットフォームの提供



2. 証券系ビジネスとしての取組み



■ 推進体制の構築

グループの機能・ノウハウの融合や分散・重複機能の統合、コストセンターのプロフィットセンター化を目的に再編成を実施
証券会社、地域金融機関等へのサービス提供機能を充実

I. コスモ証券の完全子会社化 (2008年8月)

ーコスモ証券の機能・業務ノウハウとCSKグループのノウハウ・リソースの融合

II. CSK-IS金融経済研究所の発足およびコスモ証券の投資調査機能の移管 (2008年8月)

ー地域金融機関の経営サポート機能と証券リサーチサービス機能の対外向け活用

III. CSK証券サービスの体制強化 (2008年8月)

ーCSK-IS金融経済研究所との連携とカスタマーサポート機能の拡充

IV. コスモエンタープライズの教育・研修機能のCSKマーケティングへの移管 (2008年10月)

ー営業サポートサービス(投資教育・投資情報サービス、アウトバウンド、インバウンド等)の拡充

V. コスモエンタープライズの証券BPO機能のCSK証券サービスへの移管 (2008年12月予定)

ー証券BPO事業(業務運用)の本格展開

VI. コスモ証券(存続会社)とCSK-RB証券の合併 (2008年12月予定)

ー機能を集約することによる経営資源の最適化と地域金融機関向け事業の体制強化

3. 情報サービスとしての取組み



■ 情報サービス事業におけるサービスプロバイダーへの取組み

■ 金融市場への変化対応

- 法制度改定並びに各種規制の強化などが頻繁に行われており、案件の大型化、複合化も進展
グループをあげた戦略型営業への取組み、営業レビュー制度の充実
関連省庁、業界団体などからの情報収集、各種法令・規制等調査機能の強化

■ IT競争力の強化

- ニアショア & オフショアリモート開発／保守体制の強化
BPへの発注からオフショアとCSKの強みであるニアショア活用へ切り替え
- フレームワークファクトリの活用推進
プログラム開発言語領域を拡大し、高品質・短納期の開発を促進
- センター型サービス提供の推進
東京地区データセンターの全てのユーザーの動的情報をリアルに監視する仕組みを構築
完了し、順次顧客に営業予定

■ 専門性の強化

- BPOサービス分野における各社の機能・事業分野を見直し、来年度再編を予定

3. 情報サービスとしての取組み



■ 情報サービス事業におけるサービスプロバイダーへの取組み

■ アセット(業界特化型資産)の構築・再利用

- 文教:
教育機関向け業務支援サービス

- 金融:
 - ① 金融犯罪取引モニタリングサービス
 - ② 損害保険業界向け 新契約計上業務サービス
 - ③ 金融分野における法制度対応
 - ④ ローン業務システム
 - ⑤ クレジットカード入会業務 与信審査サービス

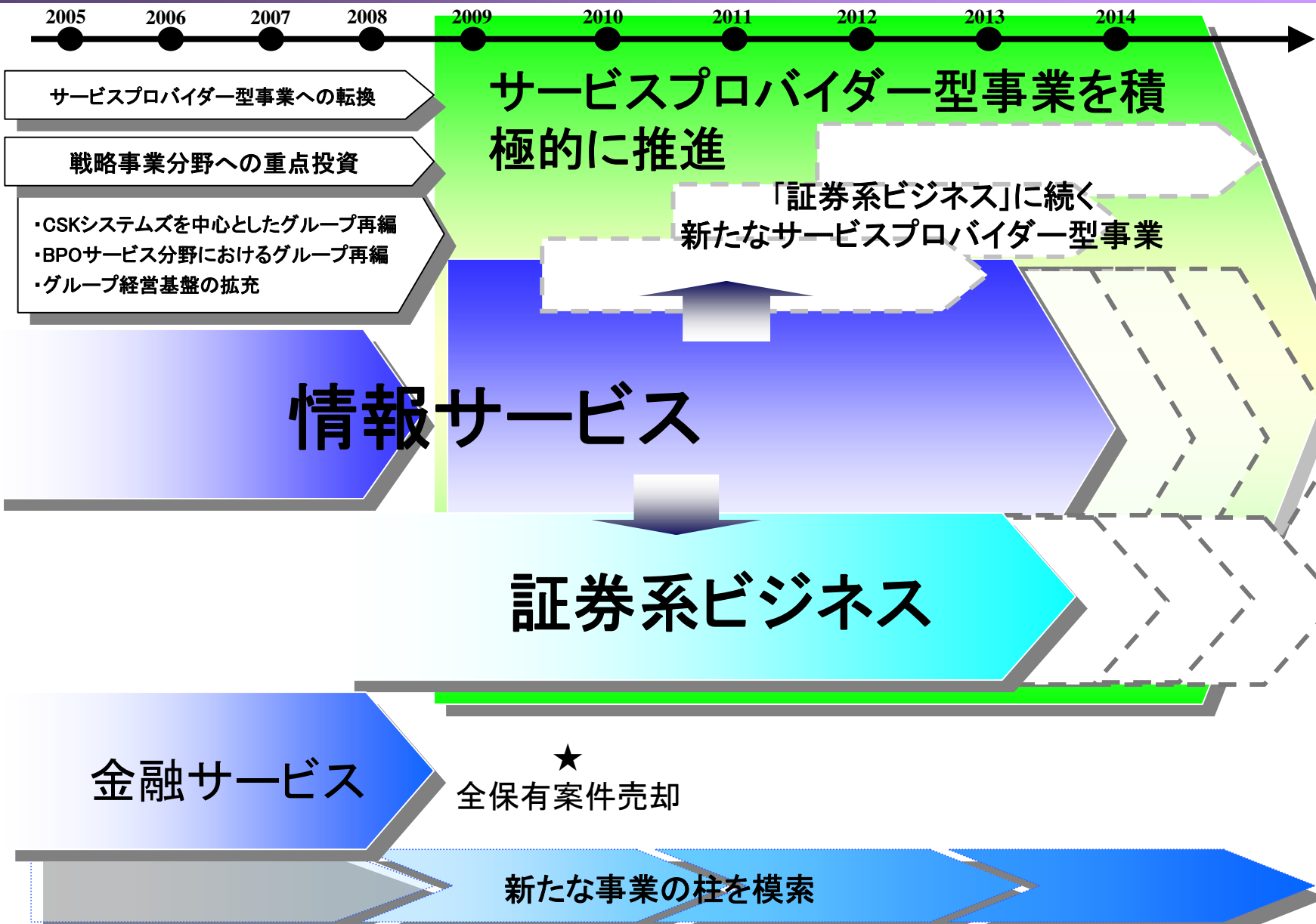
- 流通:
 - ① 次世代EDI(業界標準)
 - ② フルフィルメント業務アウトソーシング

- 共同事業型サービスの展開
CSKプレッシュェンド(株式会社ブランディングとの合併会社)の基幹システム及び業務の本番稼動と共に他業種展開

4. 目指すべき方向性



■ 社会が必要とする新たなサービスを創造し提供し続ける企業グループ



社会が必要とする新たなサービスを創造し
提供し続ける企業グループ

< 免責事項 Disclaimer >

本資料は、業績およびグループ事業戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、CSKホールディングス及び当社グループ会社の株式の購入や売却を勧誘するものではありません。本説明会及び資料の内容には、将来の業績に関する意見や予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。よって、その実現・達成を約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。また、本資料の無断での複製、転送等を行わないようお願い致します。

This material is intended to provide information about the business performance and strategy of the CSK Group. It is not intended and should not be construed as an inducement to purchase or sell stock in CSK HOLDINGS or CSK Group companies. Statements in this presentation and at the explanatory meeting that are not historical fact are forward-looking statements, based on the current beliefs, estimates and expectations of management. As these beliefs, estimates and expectations are subject to a number of risks, uncertainties, and assumptions, actual results may be materially different. CSK HOLDINGS undertakes no obligation to update any forward-looking statements, and shall in no event be liable for any damages arising out of the use or interpretation of this material. Please refrain from copying, disseminating or distributing this material without the prior consent of CSK HOLDINGS.